

注目の新設校インタビュー

お話 武南中学校(認可申請中)

武南高等学校 校長 田部井 功 先生

中学校開設準備室長 峯岸 弘之 先生



左 田部井先生 右 峯岸先生

編集部 よろしくお願いたします。来春、武南高校に中学校が開校しますが、以前にも中学校があったとうかがっています。

田部井 本校は1963年に開校しましたが、開校当初は高校だけでなく中学校も設置していて、中学・高校同時開校でした。ただ、現在のように中学受験が広がっている時代ではなく、正直なところ、中学校はかなり生徒募集で苦戦していました。現在よりも公立の中3生の数が多い時代でもあり、高校教育に専念することとして1972年に中学の募集を停止しています。

編集部 今回、改めて中学校を開校しようとお考えになったのはなぜですか。

田部井 社会が変わってきたことです。これからは、今までよりさらに厳しい社会になるでしょう。新しい社会、こうした社会を担っていく人材を育成するには3年間では不足です。意欲の高い生徒に中学校からしっかりした一貫教育を実施することで、社会を支える人材を育成したい、そう考えて開校することにしました。

編集部 厳しい社会を担っていくのに必要な力とは、どんな力でしょうか。

田部井 確かな学力と21世紀型のスキル、そして豊かな教養と高貴な人間性でしょう。ですから本校の一貫教育の目標は「グローバルリーダーとして必要な、確固たる人間性と知性の育成」で、生徒全員が「BUNAN Advanced」の一員です。

編集部 確かな学力とはどんな力ですか。

田部井 目に見える学力としては難関国公立大学や海外の大学に進学する力です。6年後の進路決定に向けて、学習を積み重ね、10年、20年後の自己実現

を図る力です。

編集部 難関国公立大というと、やはり東大を中心にお考えになりますか。

田部井 やはり東大が研究や教育にかかる予算はすごいです。最先端の学問を身につけることは大切だと思います。ですから6年間で東大の入試に耐えられる学力を無理なくつけていきたいと思います。徹底した親身の指導で、生徒たちの力を養成していきます。

編集部 授業時間数が多いのでしょうか。

田部井 本校では週6日制なのはもちろんのこと、長期休暇中の講習などを含まないで年間250日の指導時間を確保します。公立の学校よりも4割多い授業日数です。これによって、決して急がない授業でありながら、中3で高1内容に入ることができます。

編集部 先取りですがしっかり1つずつ積み上げる授業、ということですね。すると、中学校に入学した生徒たちは高校に上がっても、高校から入学する生徒とは混合しないわけですね。

田部井 はい。別々に学習していきます。

編集部 目に見えない学力とはどのようなものでしょうか。

田部井 それが豊かな教養と高貴な人間性です。これは「本物を体験すること」で身につくものだと思います。本校は立地に恵まれています。博物館や美術館がある上野へは30分、歴史と文化の鎌倉も2時間はかかりません。積極的に「本物」と触れ合います。そしてその延長線上の取り組みとして、中2ではアジア文化圏、高1では欧米文化圏に出かけてホームステイだけでなく、様々な学習を行ないます。

編集部 21世紀型のスキルとはどのようなもので

しょうか。

田部井 リーダーシップがあり、コミュニケーション能力とコラボレーション能力に長けて、情報面や数理面ではしっかりした活用能力を持ち、さらに自立した学習者として課題探究能力を備えることだと思います。それを支える土台は英語教育とICT教育で、特に力を入れます。

編集部 英語教育の特色をお願いします。

峯岸 英語を「わかる」だけから「使える」にもっていきます。大学入試対策だけでなく、英検やTOEICに挑戦して資格をとるように指導することはもちろんですが、それが目的ではありません。英語でしっかりコミュニケーションをとれることが大切です。

編集部 それで海外研修を行なうわけですね。ただ、中2の海外研修はアジア文化圏ですから、交流は直接英語に触れる、というものでもなさそうですが。

峯岸 アジア文化圏ですが、交流はできるだけ英語で行なわれます。「グロービッシュ」という言葉をご存知ですか。英語のことですが、特にネイティブ英語圏ではない地域での共通言語として提唱されているものです。国際社会でコミュニケーションをとっていくための道具としての共通語です。中2の海外研修では、アジアの同年輩の生徒たちが、国際社会で活躍することをめざしてグロービッシュを使いこなしていることを、肌で体験してもらおうと思っています。

編集部 「使える英語力」は、知識だけでなく物怖じしない度胸も必要だと思いますが。

峯岸 ええ。なかなかうまくコミュニケーションをとれない場面も多いかもしれませんね。でもそれが狙いです。実体験を通して、勢いのあるアジアの人々のアイデンティティを肌で感じてほしいと思います。それが「使える英語力」へのモチベーションにつながります。

編集部 高2の欧米文化圏での研修も同じ目的ですか。

峯岸 他にイングリッシュキャンプを予定していますが、さらに高2では1ヶ月程度の英語圏での海外研修を予定しています。「使える英語」の実践の場、そして多様な異文化に触れる場だと考えています。また、それまでに様々な日本文化に対するフィールドワーク等を行なって、日本文化についての見識を

深めた上で実施しようと思っています。現地の方々とのコミュニケーションでは当然日本文化についての説明も求められますから。

編集部 ICT教育についてはいかがでしょう。

峯岸 新築する中高一貫の校舎には全館で無線LANによるネット環境を整備するほか、全教室に電子黒板を設置します。教員がこうした機器を使いこなしてわかりやすい授業を行なうのはもちろんですが、生徒たちに1人1台ずつPCを持たせます。自分でこうしたシステムを使いこなして、画面にデータを示しながらのディスカッションやプレゼンテーション、必要に応じてすぐに資料を検索して確認しながら進めるような、アクティブな学習を行なっていきます。

編集部 中高一貫生用に校舎を新築するのですか。

田部井 はい。現校舎の道路を挟んだ向かい側に中高一貫生の専用の校舎を新築しています。一部、現在の高校校舎の施設も共用しますが、中学入学生と高校入学生は別校舎になります。



【武南中学校 校舎】

編集部 新校舎にはどのような特徴があるのでしょうか。

田部井 一部5階建てで、1階には職員室や特別教室の他、多目的ホールとしてメディアホール、そして図書室の機能を持つメディアセンターなどが配置されます。2階以上は普通教室が中心ですが、各フロアの中央には机・椅子の配置を動かすことで多様な学習が可能になるラーニングcommonsを配置しています。

編集部 よくあるスタイルの教室だけではないのですね。

田部井 通常はホームルーム教室があって、すぐ外の廊下に生徒個人のロッカーがあり、ホームルーム教室を基準にして日々の学校生活をおくりますが、

新校舎はホームベース方式としています。

編集部 ホームベース方式とはどのようなものですか。

田部井 各フロアには、教室とは別にロッカーとテーブルを配置した一種のラウンジがクラス単位で配置されています。これがホームベースで、ここを生活の拠点とし、必要に応じて教室を移動して学習していくものです。言葉で説明しただけではわかりにくいでしょう。新校舎は6月下旬には完成しますので、見学に来てください。

編集部 今度は生活面についてうかがいます。最初のお話に出ましたが、週6日制ですね。

田部井 はい。50分授業で、平日は7限授業の日もあり、土曜日の午後は講演会を入れたりします。

編集部 お昼はお弁当ですか。

田部井 はい。ですが、希望者は購入できるように準備します。

編集部 授業は新設の中高一貫生と高校入学生は別々のようですが、クラブ活動はいかがでしょう。

田部井 これも一部を除いて別々になるでしょう。

編集部 中学生はともかく、中学入学生が高校に進学後も、部活動は別々ですか。

田部井 詳細が決まっているわけではありませんが、特に運動系は難しいでしょう。野球部やサッカー部をはじめ、本校の運動部は全国レベルが多いですし、各部が獲得したタイトルも合計で1000を超えました。先日も水泳でロンドンオリンピック出場が決まった生徒の壮行会を行っています。こうした高校入学生と、年間250日授業を行う中高一貫生はスケジュール面でも合わないでしょう。

編集部 文化祭や体育祭などはいかがですか。

峯岸 まだ決まっていない部分もありますが、一緒にできるものは一緒にやっています。できないものは、中高一貫生だけで学年を超えて取り組む、といったことも考えています。

編集部 クラブなどに熱中して勉強に身が入らなく

なるケースはどのように対応をお考えですか。

峯岸 学習の積み残しは生徒本人も辛い思いをします。新1年生は入学前の3月から、校長面接を含む入学前指導を行い、中学生としての勉強姿勢の確立に努めます。でも、時には勉強がお留守になることもあるかもしれません。早期発見で日常的に補習等の指導を行ないます。長期休暇まで待たずに対応します。

編集部 では入試についてうかがいます。日程等はどのような予定でしょうか。

峯岸 4回の入試を予定しています。1回は1月10日で募集人員は40名、2回は1月15日で20名、3回は1月24日で10名、4回は2月4日で10名の計80名募集です。10日は午前午後、他日は午前実施、2科4科選択で当日発表です。

編集部 出題方針はいかがですか。

峯岸 難問奇問は出しません。各教科とも標準的な問題です。国語は読解の大問2題と知識問題、算数は計算問題、「決まり形の問題」を多く出題しますが、文章を読んでその場で解決する対応力を見る問題も出題します。理科は生物・地学・化学・物理から大問1題ずつで基礎的な知識問題が中心ですが、実験結果から考える問題なども出題します。社会は大問の中に地理・歴史・公民分野を融合した形で出題し、基本問題が中心ですが時事問題も取り上げます。

編集部 では最後に、受験生、保護者の皆さんへのメッセージをお願いします。

田部井 「BUNAN Advanced」が育てたい生徒像は、困難にも笑顔で挑戦するようなタフな若者です。来年は本校だけでなく、県内にあと3校新設の中学校が開校しますが、既存の各校も含め、いろいろな学校を見ていただきたいと思います。そして施設やカリキュラムだけでなく、担当者の熱意を見てください。そしてその中で、武南中学校を選んでいただければ幸いです。

編集部 ありがとうございます。

武南中学校(認可申請中)

交通案内 JR京浜東北線西川口駅から徒歩約10分

○説明会 7/18(月)、9/22(土)、10/6(土)、10/17(水)、11/10(土)、11/17(土)、12/16(日)各10時～14時～の2回実施、10/3(水)、10/10(水) 各18時30分